

効果的な活性化策探る

さぬき

四国内で活動中の「地域おこし協力隊」が一堂に集まる交流勉強会が5日、さぬき市内で始まった。初日は地域産品の開発・販売や観光・ツーリズム振興などについて、各地の事例発表やパネル討論があり、隊員らは自身の取り組みと比べながら、より効果的な活性化策などを探った。



効果的な活性化策について知恵を出し合う四国の地域おこし協力隊員ら—さぬき市寒川町、市寒川農村環境改善センター

協力隊制度は、外部の人材を活用して地域活性化を図ろうと、総務省が2009年度に創設。隊員は各自自治体に移り住み、それぞれの特長を生かした地域おこし活動を展開している。勉強会は11年度から四国4県が持ち回りで開いており、県内では初開催。この日は約70人の隊員や導入自治体の担当者ら計約110人が参加。隊員が地域産品

や観光、地域資源を活用したまちづくりをテーマに事例を発表し、自治体担当者も隊員の受け入れ体制などで意見を交わした。観光分野での事例発表では、香川大経済学部原直行教授が進行役を務め、ワイン用ブドウの収穫体験ツアー(さぬき市)や、補助金に頼らないイルミネーションイベント(愛媛県西予市)、女子力を生かしたま

「大修理」終えた 姫路城見に来て

キャラバンが来社

ち歩き型観光(高知県須崎市)など隊員が手掛けた事例を基に、より良いPR方法や継続するための課題について考えた。

原教授は「多くの活動には地域住民を巻き込む力が求められている。何のためにツーリズムをやるのかという目的意識も大切」と指摘した。13年8月から、さぬき市で活動する舟越彩子さん(33)は「地域の中にあると、どうしても『井の中の蛙』になりがち。同じ

「平成の大修理」を終えた世界遺産・国宝姫路城大天守が3月下旬にグランドオープンするのを前に、姫路市のキャラバンが5日、高松市中野町の四国新聞社を訪問。城内で開かれる記念イベントや姫路市内の見どころなどをPRし、来訪を呼び掛けた。

26日に行われる完成記念式典では、和太鼓演奏をはじめ、航空自衛隊アクロバット飛行チーム「ブルーイ

パルス」が祝賀飛行を披露。27日から大天守を一般公開する。

城内では、週末を中心に門番や甲冑隊、忍者に扮した「姫路つわもの隊」が観光客をもてなすほか、4月には約1千本の桜が植えアピールした。



姫路城をPRする「姫路お城の女王」の山崎さんら—高松市中野町

障害者雇用し空き店舗で事業

補助第1号は協同回収(三)

高松市

障害者を雇用し、商店街の空き店舗を活用して事業を行う企業などを支援する高松市の補助事業で、第1号となる対象企業が決まった。市が2014年度から取り組む事業で、障害者の多様な就労の場を確保するとともに、商店街の活性化につなげるのが狙い。市によると、障害者の雇用に関して自治体が事業者へ補助

を行うのは県内では初めてで、全国でも珍しいという。対象は、市中央商店街の空き店舗で事業を始める事業者で、市内在住の障害者を新規に3人以上雇い、従業員のうち障害者が5割以上を占めることが条件。店舗の改修費などの初期投資に上限300万円、家賃や人件費などは年間約680万円を上限に補助する。

市は昨年10月に事業者を公募。審査の結果、総合リサイクル業の協同回収(三豊市)を第1号に認定した。同社は障害者3人を雇用し、貴金属やブランド品などの買い取り・販売を行う「エコリッチ田町店」を7日にオープンする。

市は15年度以降も補助事業を継続し、年間1社程度を新たに認定する予定。市障がい福祉課は「さまざま業種で障害者の働く場をつくりたい。事業者には積極的に手を挙げてほしい」としている。

「記者ノート」

「相手は詐欺師。受話器を取れば口車に乗せられてしまう。『電話を掛けさせない』ことが最大の防犯なんです。富山市の担当者の言葉に共感した。県警は新年度、高齢者宅の電話機に振り込め詐欺撃退装置を設置する対策を始める。そこで、先行する富山市に話を聞いた。

演などを予定している。

2600平方メートルの取得